

**夏休みの過ごし方**

今年度の夏季課外は、全国総文祭の関係で期間が短縮されています。その分、1時間1時間を大切に、集中して課外に臨みましょう。そもそも課外は、通常の授業では不足する問題演習を確保する時間であり、知識を補強する時間でもあります。自学自習では気づけない解法や勘違いをしていた部分、自分の苦手な設問パターンを自覚し、必要に応じて習得・修正をしましょう。

7月28日からの24日間は、起床時間や就寝時間、自由時間や学習時間の全てにおいて君たちの意識が試されます。この期間にしっかりと自身を律し、「どれだけ自分を向上させられる」24日間であるのかを十分に考えて行動し、「何かをやり遂げた」期間にしてください。

また、学習について挑戦してほしいことがあります。それは、1日10時間以上学習する日を設定することです。まず朝は普段通りに起きて、午前中に3～4時間取り組んでください。そして昼間に2～4時間勉強し、夕方以降「いつも通りに」2～4時間学習してください。そうすると、「10時間以上の学習」を達成することができます。この夏にしっかりと学習に取り組んだ生徒は、秋以降、驚くほど学力を伸ばします。この夏、皆さんが一回り成長してくれることを期待しています。

夏の学習 ～59期生～

59期生は、7月29日から全統共通テスト模試が実施されます。基本・標準レベルの問題に対して、自分の理解と判断の速度と精度を確認しましょう。その際、昨年度の共通テスト分析や、教科の先生方にお聞きした内容をもとにまとめた以下の点に注意しましょう。

英R	速読（概要を捉える）ことが大切。言い換えられた表現に気づき、選択する。
英L	1回読みと2回読みの切り替え。「消える音」や「変わる音」に習熟する。
数学	問題文のポイントを速く正確に読み取る。読み流す部分と精読する部分の切り替え。
国語	古典文法や漢文句形がどのように選択肢に組み込まれているかの判断を速く正確に。

なお、全教科共通の注意点は「時間配分」です。また、これまでの模擬試験を通して明らかになった自分の修正点を意識し、実際に変えましょう。設問の読み違いをな

くす、移項時の符号に注意する、計算に時間をかけすぎないなど、確実に自分を改善していきましょう。

ところで、先日返却された進研共通テスト模試の結果をどう受け止めているでしょうか。後述しますが、「悪かった」という評価だけでなく、「この分野が上がった」という評価もしましょう。そもそもこの成績は「5月末」のもので、59期生はこの7週間で確実に力を増しているはず。決して悲観せず、一方で慢心せず、自分の目標に向けて地道に学習に励みましょう。

受験科目や配点の確認も怠らないようにしましょう。志望校合格には「何」が「どれだけ足りないのか」を把握すると同時に、自分の「強み」を「どれだけ生かせるか」を意識しましょう。「夏を制するものは受験を制する」という言葉は真実です。模試の結果から自分の得手不得手を再確認して「この夏の重点項目」を設定しましょう。ただ量をこなすのではなく、確かな戦略をもって学習に取り組み、志望校合格に近づきましょう。

夏の進路の考え方

7月10日～12日の3日間、59期生の進路検討会が行われました。記述模試や共通テスト模試の結果等を参考にして、一般選抜や学校推薦型選抜などの受験方法の検討はもちろん、個別学力試験で必要な教科の現在の実力の確認や目標設定について、具体的に検討しました。59期生は、夏の三者面談で積極的に質問しましょう。個別学力試験の試験科目や配点を意識し、第1希望・第2希望の設定をどうするか、担任の先生と一緒に具体的な戦略を立てましょう。

60期生は、志望大学・学部・学科について選択肢を絞り込んでいく時期です。例えば鹿児島大学のオープンキャンパス申込が7/19から始まっています。県外にも目を向け、対面型・オンライン型のオープンキャンパスを大いに活用しましょう。

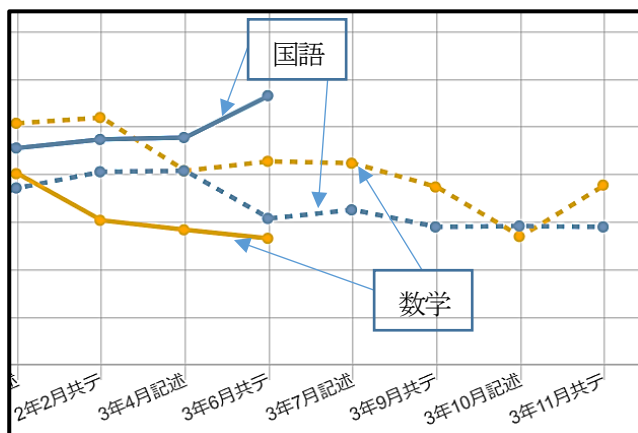
61期生は、文理選択について考える時期が近づいています。その時に安易な選択をしないためにも、学部学科や職業について、三者面談で確認したことや自分で調べたことをもとに、将来へ思いを馳せましょう。

夏休み中の学習室（大会議室）利用時間

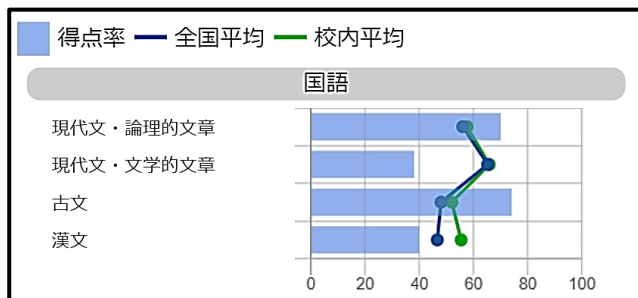
8：30～16：30（8/13～16は閉館）

自己の課題の理解 → 分割

進路指導室だより6月号で紹介した、「課題を分割」することについて具体的に説明します。分割する前に、自分の教科科目の現状を確認しましょう。



上に示したグラフは、国語（上の実線）と数学（下の実線）の成績（ss）を示しています。点線は希望大学学部学科の合格者平均です。国語は安定して合格者平均を超えていますが、数学は下回っています。ここで、今後まず力を入れる教科を決めます。国語をさらに伸ばすか、それとも数学を強化するかということです。「両方とも」という選択肢は、今回は省きます。



取り組む教科を決めたら、次は課題の分割です。上に示したのは、国語の成績が全国平均レベルのグラフです。棒グラフが本人の成績、折れ線グラフが平均です。得点率では、大問2「文学的文章」と大問4「漢文」が両方とも4割程度ですが、よく見てみましょう。大問4は平均に近い得点率であり、あまり「差が付いていない分野」ですが、大問2は他者が伸ばしている大問で得点できていません。これは「差を付けられている分野」とも言えます。大問1と3で得たアドバンテージを、大問2で大きく放出してしまっています。逆に、折れ線グラフが左にへこんでいるときに棒グラフが右に伸びていれば、その分野は「差を付けている分野」、すなわち「武器」になっています。上のグラフでは、大問3が該当します。

また、高校生は、できなかった部分ばかりを意識しが

ちですが、「できたこと」も数えましょう。得点の源、自信の源を意識することは、心に余裕をもたらします。8月中旬には、1・2年生も模擬試験の結果が分かります。自分の現状を把握し、課題を分割し、自己理解を深め、行動に移しましょう。

学習効率を上げる

課題が分割できたら、次は克服です。課題克服のためにどうすればよいか、昨年も紹介した「OODAループ」という手法について説明します。

OODAループとは、「①観察(Observe)」、「②状況判断(Orient)」、「③意思決定(Decide)」、「④実行(Act)」という4つのステップと「⑤見直し(Loop)」で構成されています。左の国語を例にすると、

- ①「文学的文章」「漢文」の得点率が低い。
- ②①の内、「文学的文章」で差を付けられている。
- ③理由を説明する問題の得点率を上げると決める。
- ④問題数や日数、期限を決めて取り組む。
- ⑤取組内容が適切だったか、計画に無理がなかったか、次回の取組をどうするかなどを確認する。

となります。学習内容だけでなく、学習方法の検討も有効です。③を「言葉を並び替える練習」をするのか、「等号や矢印を用いて素早く作図する練習」をするのかでは、効果も変わるはずですが、このように自分の行動を具体化することで、自己を向上させていきましょう。

また、特に効果的に記憶されるのは寝る前に学習した内容であるとされています。したがって、効果的な記憶の定着を図りたいのなら、寝る前に学習以外の余計な情報は頭に入れないことが重要です。SNSの使用が学習内容を忘れさせるという科学的なデータもあるようです。なお、「レミニセンス効果」というワードを検索してみてください。より詳しく知ることができます。

勉強量を「見える化」することも、学習効率向上に役立ちます。C-passに毎日記録し、教科ごとの累積の勉強時間を書き出したり、学習を全てボールペンで行い、使い切ったボールペンの芯を保管したりするという方法です。そうすることで、自分が確実に勉強しているという実感を手にすることができ、モチベーションも維持できます。「合格体験記」や「不合格体験記」を読んで良いイメージや打ち克つイメージを作るのも良いでしょう。

大学入学共通テストまであと177日。頑張れ3年生！